

拳ノ川小学校

「確かな学力を備え、豊かな心を持ち、体力に富み、主体的に活動する拳の子」の育成

校長 上田 壮

◆幡多の東端の小さな学校

全校児童16名、完全複式の拳ノ川小学校です。

幡多の東の端の山間に位置し、四季折々の豊かな自然の息吹を感じながら子どもたちは日々過ごしています。

明治8年10月に学校創立、一時は100名を超える児童がいた頃もあったそうですが、最近では15名前後の少ない人数で推移しています。

校区は、拳ノ川・市野瀬・橘川・荷稻・川奥・小黒ノ川・中ノ川の7地区からなり、地域の方々はいつもと学校教育に対して温かい目で見守ってくださり、子どもたちもそんな恵まれた環境の中ですくすくと元気に育っています。

小さな小さな学校ですが、とても素敵な学校です。



◆学校教育目標

「確かな学力を備え、豊かな心を持ち、体力に富み、主体的に活動する拳の子」を育てることが本校の学校教育目標です。

すべての教職員が、指導力、想像力、創造力、組織力を発揮し、チーム学校として「知」「徳」「体」のバランスのとれた質の高い教育を実践し、保護者や地域に愛され、信頼される学校づくりをめざしたいと考えています。

◆ふるさとを愛する子どもを育てる

今年16年目を迎え、本校にとってなくてはならないコミュニティ活動。「地域の宝(子ども)をみんな(学校・家庭・地域)で育てる視点で、課題を共有し課題解決のためみんな(学校・家庭・地域)で取り組んでいく」を目標に、さまざまな活動に取り組んでいます。低学年では、あったかふれあいセンターの利用者の方々と芋のつるさしや収穫、中学年では、どてカボチャ作りや高齢者の方との交流、高学年では若山楮に関わっ

ての学習と、各学年が地域との関わりを大切にした取り組みを行っています。佐賀北部の夏祭り、秋の収穫祭などもこの地域ならではの大きなイベントで、

たくさんの人との交流が子どもたちにとっても大切な宝物となっています。また、3年前から高知大

学地域協働学部の学生が「地域活性化」を研究テーマとして、佐賀北部を中心に活動を行っており、本校でも《水曜放課後プロジェクト》として子どもたちと交流を図っています。新型コロナウイルスの影響で交流ができなときは、オンラインで子どもたちと話す機会を作ろうとするなど学生の熱い思いも伝わってきます。

今年度は、県の実践的防災教育推進事業の指定を受け、「土砂災害」についての研究を深めていきます。防災に対する意識を高め、緊急時に判断・行動できる資質を養うことで、黒潮町の大自然と向き合える子どもを育成したいと考えています。いずれにせよ、子どもたちにはこの恵まれた環境への感謝を忘れることなく、

わがふるさとを誇れる、そんな大人になってほしいというのが教職員一同の願いです。



◆学力の向上をめざす

本年度、研究テーマを昨年に引き続いて「主体的・協働的に学ぶ子どもを育てる」聴き、考え、表現する複式の授業を通して」とし、年3回の授業研における講師招聘、授業スタンダードの確立とUD(ユニバーサルデザイン)・生徒指導の三機能の視点を立った授業構成の工夫、ノート指導、綴り方集会の実施、自主学習の質の向上、読書指導、学習環境の整備など、少人数の良さを活かしながら課題解決に向けて取り組みを進めていきます。本年度より新学習指導要

領の完全実施となり、これまで以上に授業の質の向上が求められています。子どもたちの課題を把握しつつ、意欲的、主体的に学ぼうとする姿勢を育んでいけるよう研修を積み重ねて参ります。



◆スキルアップをめざして

全校児童16名を中心として本年度は9名の教職員スタッフが一枚岩となって教育活動に取り組んでいます。一人ひとりが支え合い、互いに切磋琢磨できる職場環境でありたいものです。◎ころやさしく、⑤ふるさとをほこれ、①ゆたいたいに活動でき、⑨うりよくを發揮し、④からだをきたえを大切にす、③⑤①⑨④②の子どもたちをめざして今後も努力して参りたいと思っています。

三浦小学校

学校・家庭・地域の協働を
基盤に、〈知〉〈徳〉〈体〉の
バランスのとれた教育活動を

校長 吉本 千史

◆はじめに

本年度、三浦小学校は、4月7日に6名の新入生を迎え、全校児童42名、教職員12名でスタートしました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言で、1カ月余りの休校となりました。5月11日に学校が再開されたものの、三密を避けることや毎日の検温、マスク着用、こまめな手洗いや消毒などを行いながらの生活です。子どもたちにとっても、教職員にとっても、今までとは違う不自由な面もありますが、安心、安全な生活実現のため、「新しい生活様式」に沿った行動をとりながら、教育活動を進めていきたいと考えています。

今年度の学校教育目標を、『いつも笑顔で「元気です」
○確かな学力〈知〉
○豊かな人間性〈徳〉
○たくましい心と体〈体〉』をバランスのとれた教育活動の展開〜』としました。

この目標の実現に向け、学校・保護者・地域が一体となり、協働して子どもを守り育てていきたいと思えます。

三浦小学校は、以前から地域とのつながりの強い学校です。その強みを活かして「コミュニティ・スクール」(三浦の子どもを育てる会)を中心とし、「ESD(持続可能な社会づくりの担い手を育む教育)」の視点を大切にしながら、「ふるさと・キャリア教育」にも取り組んでいきます。

それでは、今年度の重点的な教育活動を紹介します。

◆〈知〉の取り組み

○授業改善

学校の教育活動の中心は日々の授業です。その授業を改善していくために、今年度の研究主題を「主体的な学習活動をめざした授業づくり〜自己有用感・自尊心・自信と意欲を主体性へ〜」とし、国語科を中心として研究していくことにしました。そして、各担任が、年間1回は研究授業を

行い、授業改善に取り組んでいきます。その折には、西部教育事務所の指導主事を招聘し、新しい学習指導要領に基づいた授業の在り方や大切な視点やポイントなどを教えていただきながら授業研究に取り組んでいくこととしています。



研究授業

◆〈徳〉の取り組み

○仲間づくり・絆づくり

あいさつ運動・縦割り班活動(作業を大切にする)・児童会を中心とした集会活動・ハートフル朝会など、学級や全校の心のつながりや絆をつくる場面を意識的に設けています。これらの活動を通して、子どもたちのより良い人間関係や全校の絆づくりが進んでいけばと願っています。

また、日々の子どもたち

の様子や行動を観察し、気になる場合や配慮が必要な場合は、教職員で常に情報を共有しています。そして、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを交えて定期的に校内支援委員会を開き、課題のある児童や配慮が必要な児童について対応の在り方などを話し合い、日々の取り組みに活かしています。



平和七夕作り

◆〈体〉の取り組み

○健康・体力づくり

健康な体や体力の向上には、基本的な生活習慣の確立が不可欠です。そのため、年間5回、1週間程度、生活調べを行い、自分たちの生活を見つめ直す機会をとっています。家庭の協力が不可欠なことも多く、家庭

を進めています。

また、体力づくりでは、体育の授業以外にも力を入れていきます。基本的には、毎日徒歩通学を行っています。丈夫な体づくりの土台になると考えています。

20分休みや昼休みは外遊びを奨励しています。みんな元気に、楽しそうに遊具遊びやボール運動などをしていきます。

朝運動は毎朝5分間、マラソンを行います。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため控えていましたが、6月後半から一輪車に乗る練習を始めました。1年生は、初めてのことで1人では難しいため、6年生に補助してもらいながら一生懸命取り組みました。



朝運動(一輪車)